

鳥海を見つめて

曲・詩 鈴木 創・梅津勘一

風過ぎて 波穏やかに
銀板の海 朝が訪れ
始まりの炎 映す海面
鳥海が影 落としている

黒く眠る 大海原の中
朝日が小さな島 見つけるころ
入り江の家には もう灯が点り
イカ釣り船 迎える

満天の星座 漁火のきらめき
海鳥の声が 朝を運ぶ
東の空が 赤く燃える
水平線はるか 山が浮かぶ

鳥海から 朝日さす島
鳥海に 手を合わせ祈る人
鳥海を 見つめ暮らす
鳥海に 守られ 生きる島